

筑前琵琶保存会

創立60周年

記念演奏会



令和6年9月29日(日) 12:20開場/13:00開演

大濠公園能楽堂

大濠公園(3番出口)下車 徒歩7分  
福岡市中央区大濠公園1-5 ☎092-715-2155

入場料:2,500円(来場者プログラム付)

チケット取扱(8/1~):チケットぴあ(Pコード273268)

主催:筑前琵琶保存会

後援:福岡県・福岡市・福岡市教育委員会・(公財)福岡市文化芸術振興財団・福岡文化連盟

お問い合わせ:☎070-5691-6950(筑前琵琶保存会・寺田)

ホームページ<http://chikuzenbiwahoizonkai.mystrikingly.com>

チケットは7月1日からホームページからもお申込みいただけます→



## 【祝儀】聴筑前琵琶平家曲

漢詩 秦英萊

吟 吟詠道鶴洲流宗嗣 河野声洲

尺八 都山流竹琳軒大師範 山崎笠山

琵琶 寺田蝶美

五十周年の折にお祝いの漢詩を元会員の秦氏より頂いた。今年も大濠公園能楽堂にて「平家物語」を語る演奏会を開催できることを祝して祝儀曲とした。

### 一 常磐都落

作詞・作曲 寺田蝶美

演奏 高倉青香

源義朝が平治の乱にて敗戦したとの知らせを受け、常磐は今若、乙若、牛若の幼き子ども達を連れて密かに都を離れる。雪が降り寒さ厳しき道中、常磐の胸に抱かれていた赤子が後の源義経である。

### 二 小督

作詞 角屋壽吉 作曲 嶺旭蝶

琵琶 宝満蝶翼

小督は高倉院の元を離れ身を隠した。それを嘆いた高倉院は小督を連れ戻すよう家臣の仲国に命じる。嗟嗟野に向かった仲国は、ふと聞こえてきた琴の音に馬を引き留めた。その音色が聞き覚えしている小督のものであると確信した仲国は庵を訪ね入る。

### 源平一の谷

寿永三年二月、都を追われた平家であったが、再び勢いを盛り返そうとしていた。しかし源氏軍の作戦により海へ敗走することとなった。源氏軍に追われた平家の武将のそれぞれを描く。

語り芝居 声色俳優 岩城朋子

### 三 鴨越の逆落

作詞・作曲 寺田蝶美

演奏 堤啓子

源義経は奇襲を企て精銳を率い、平家軍背後の山中へ分け入ると、鹿がようやく通るといふ獣道を進み、厳しい断崖を駆け下り平家の陣へ突入した。まさかのことに驚いた平家軍は海上に浮かぶ船へ逃れ行く。

### 四 敦盛

作詞・作曲 寺田蝶美

演奏 寺下咲良

平家軍は皆、先を争い船に逃れたが、遅れた敦盛は、源氏の武将・熊谷次郎直実と呼び止められて一騎打ちとなった。直実が馬から組落として首を切ろうと兜を上げると、そこには我が子と同じ年頃の美しい若者の顔があった。

### 五 名馬と知盛

作詞 矢野信保 作曲 寺田蝶美

演奏 吉山明咲

従者監物太郎、子息知章と敗走する平知盛に源氏の追手が迫っていた。知章は敵を父知盛に近づけまいと奮戦する。沖の御座船にたどり着いた知盛であったが愛馬「井上黒」を乗せることはできなかつた。今まで一緒に戦ってきた馬であるが此処で別れの時を迎えることとなった。

### 六 法然上人と平重衡

作詞 矢野信保 作曲 寺田蝶美

演奏 岩本空龍

一ノ谷にて囚われの身となった平重衡は処刑を待つ身となった。心乱れる重衡は法然上人と対面し、やさしくも力強い言葉で往生の道を説いていただく。重衡は心の迷い晴れ高声念仏を唱えながら最期を迎えることとなった。

### 七 那須与一

詞 平家物語より 作曲 寺田蝶美

演奏 福島紗羽

四国の屋島。平家は海上、源氏は浜辺に陣を構え対峙していた。夕刻平家方から扇を高棹に掲げた舟が漕ぎ出てくる。「これを射てみよ」との挑発に、義経の命を受け進み出たのは那須与一。風が吹き弱った刹那、源氏の命運を賭けた鎧矢が放たれる。

### 八 新・平家物語

作詞 波多江五兵衛 作曲 嶺旭蝶

演奏 山本朱莉

〔序の章〕  
「平家物語」の冒頭。あれほど栄華を極めた平家一門も、咲き誇る花が次第に色あせていくように滅んでいった。「無常」という日本人の美意識を琵琶の音色で奏で物語の始まりを告げる。

### 〈世の噂〉

演奏 松本沙紀

平清盛が十月十日の月満たぬ前に生まれた為、父平忠盛の実子ではないのではとの世の噂が青年清盛の心を悩ませた。当時の事情を知る郎党木工助に訊ねるが返答は無かつた。

### 〈神興振り〉

演奏 江田蝶月・鶴蝶陽

山王の神興が物々しい勢いで京へと下ってきた。清盛の弟平時忠らを渡せという。当時神聖で絶対尊厳のもの信じられていた神興ではあるが、憤激した清盛は迷うことなく神興に弓をひき、その矢は神興に突き刺さった。

### 〈厳島参詣〉

演奏 江田蝶月・鶴蝶陽

舞踊 寿菊派若柳流家元 若柳寿菊  
笛 長唄囃子 藤舎流笛方 藤舎元生  
安芸守となった平清盛は厳島神社を深く崇敬し、平家一門を率い、舟を連ねて度々厳島神社を参詣した。その模様を琵琶と笛の演奏で表現する。また厳島神社の御祭神が優美な姿で登場し舞台

を彩る。

### 〈壇ノ浦〉(終りの章)

琵琶 寺田蝶美

尺八 都山流竹琳軒大師範 山崎笠山

元暦2年3月24日、源平の命運を賭けた最後の戦いは壇ノ浦であった。天を衝く関の声、海上を埋め尽くした両軍の船は潮に揉まれ合戦は熾烈を極める。最中二位の尼は平家の劣勢に覚悟を定め、幼い安徳帝を抱いて海へ身を沈めた。

### 〜みどり目出度き〜

筑前琵琶保存会創立六十周年を福岡博多の演目で皆様と共に祝うフィナーレ  
演奏 筑前琵琶保存会会員一同  
福岡教育大学学生

### 九 黒田武士

作詞 平田汲月「藤巴」より抜粋 作曲 嶺旭蝶

黒田二十五騎の一人母里太兵衛友信は、使者として向かった福島正則の屋敷にて酒を呑むように強いられる。「褒美は望みのものを何でも与える」の約束のもと大杯の酒を受け、見事に飲み干し、名槍「日本号」を持ち帰る。福岡県民謡「黒田節」で有名なエピソードである。

### 十 弥栄博多

作詞 波多江五兵衛 作曲 嶺旭蝶

毎年博多どんたくにてパレード・門付け演奏にて披露している博多を祝う祝儀曲。節目の年となる今年、松のみどりのように成長著しい演奏者たちの声々で未来への希望を奏でる一曲。

司会 井芹美穂

舞台監督 岡田一志 照明 中村京 音響 小段真